

登録有形文化財

建造物 1 やぶじんじゃ 養父神社 4棟

本殿・拝殿・摂社山野口神社本殿・摂社五社神社本殿

所在地 養父市養父市場字宮ノ谷827番3

所有者 宗教法人養父神社

建設年代	本殿	19世紀中期（様式）
	拝殿	19世紀中期（様式）
	摂社山野口神社本殿	19世紀中期（様式）
	摂社五社神社本殿	19世紀前期（様式）

養父市養父市場集落の西方、弥高山の麓に鎮座する神社。天平9年（737）の文書にみえる式内社であるが、現存する境内の建物はいずれも江戸時代のものである。

本殿は、様式から19世紀中頃の建立と思われ、文久3年（1863）銘のある献灯台の存在がこれを裏付ける。木造、入母屋造、檜皮葺である。正面に千鳥破風および軒唐破風の向拝をもつ。向拝周辺を力士像・龍等の豊富な彫刻で飾り、斗拱を多用して重厚感をもたせる。また棟を千木と堅魚木で飾る。但馬地方に少ない檜皮葺の大形本殿である。

拝殿は、様式から19世紀中期の建立であり、木造、入母屋造、銅板葺である。本殿と廊下で接続する。屋根葺材の変更、向拝および内部中央の格天井等に改修がみられるが、総じて良好に保存されている。

摂社山野口神社本殿は、様式から19世紀中期の建立であり、木造、入母屋造、銅板葺である。正面に千鳥破風および軒唐破風の向拝をもち、向拝周辺の豊富な彫刻、斗拱の多用などの点で、養父神社本殿と共通する。屋根葺材の変更がみられる以外は当初の姿を良好に保っている。

摂社五社神社本殿は、様式から19世紀前期の建立であり、木造、三間社流造、銅板葺である。簡素な意匠でまとめた社殿。屋根葺材の変更がみられる以外は当初の姿を良好に保っている。

本殿は、登録基準の（二）造形の規範となっているもの、その他は（一）県土の歴史的景観に寄与しているもの、に該当する、注目される建造物群である。



本殿



拝殿



摂社山野口神社本殿



摂社五社神社本殿